

# ふじみさらダボール子育て情報



「つきあい方」  
令和元年9月25日号  
板橋富士見幼稚園



## 遊びを繰り返すことで自信と加減が育つ

いつものおもちゃで遊ぶ、いつもと同じ場所で遊ぶ、いつもと同じ友達と一緒に遊ぶ、ということは子どもにとって、安心感や安定感が生まれ、主体的な遊びができる大切な条件となります。そして時々、その子の遊びの中に新しい出会いを少し取り入れ、その経験をゆっくりと積み重ねていくことが大事なのです。

遊びは、慣れた場所で、慣れた友達とじっくり遊ぶことで、アイデアが生まれ、会話が弾み、相手との気持ちを探り合う加減を持って遊べるようになります。そして、周りの大人やお母さんは、少し離れて見ていてあげることが大切です。「あそこに行って、みんなと遊んできてごらん」「楽しいよ」



などと言う必要はありません。黙ってその場所に連れていき、しばらく待ってみてください。

楽しそうであれば、自然と子どもから一歩前に歩き始めるものです。この自然に離れていくことがとても大切なのです。自分のしたいことが見つかったとき、好奇心や興味がわいたとき、子どもははじめの一歩が踏み出せるのです。

家庭の中では、時々子どもと一緒に付き合っ  
てあげてください。そのときは、対等な立場で遊び、勝ち負けのある遊びでは、時には負けたり、解らないと言ったり、困った顔をしたりして見せながら、子どもを刺激して優位にしてあげると得意になれます。日常のそういった関わりで、意欲を引き出すことも大切です。

親子での絆をどう深めるかは、場や人との関わりを数多く経験させたり、親や大人との信頼関係をしっかりと築く関わり方が、子どもの自立心を育てます。子どもは安心して遊ぶことで、親と子との心が繋がっている実感（共感・共鳴・共有）、愛されている心【自己肯定感】の実感ができ、そういった安心感がよりどころとなっていることが、子どもの主体性や自主性を育てていきます。

子どもの遊びの中では、大人がリードしたり、しなさい、やりなさい、は禁句です。良いことや悪いこと、躾や規範意識【正義感】は、しっかり言葉で分かるまで、根気よく理由を説明してあげる付き合いが大切です。